

「放送業界における栄えある3件の表彰式、贈呈式」

神谷 直亮

6月から7月にかけて放送業界における栄えある3件の表彰式、贈呈式が行われ盛り上がった。「放送文化基金賞」「衛星放送協会 オリジナル番組アワード」「A-PAB 4K 番組アワード」である。

「第50回放送文化基金賞」

まず7月9日に、視聴者に感銘を与える顕著な業績を上げた放送番組、放送文化、放送技術を表彰する「放送文化基金賞」の贈呈式がホテルオークラで行われた。

ハイライトは番組部門で、例年通り2023年4月から2024年3月に放送・配信されたドキュメンタリー、ドラマ、エンターテインメント、ラジオの4つの番組部門の最優秀賞、優秀賞、奨励賞が発表・表彰された。

会場には、ドラマ部門で最優秀賞に輝いた「NHKスペシャル シリーズ “宗教2世” 神の子はつばやく」に出演した田中麗奈、優秀賞を獲得した「初恋、ざらり」に出演した小野花梨が出席して盛り上がりを見せた。

4部門の最優秀賞、優秀賞の受賞者は、下記の通りであった。

ドキュメンタリー部門

最優秀賞: NHK 福岡放送局のETV特集「膨張と忘却～理の人が見た原子力政策～」

優秀賞: テムジン、NHK エデュケーショナル、NHK制作の「鷹を継ぐもの」

ドラマ部門

最優秀賞: NHK エンタープライズとNHK制作の「NHKスペシャル シリーズ “44 宗教2世” 神の子はつばやく」

優秀賞: テレビ東京の「初恋、ざらり」

エンターテインメント部門

最優秀賞: CBC テレビの「歩道・車道バラエティ 道との遭遇」

優秀賞: 読売テレビ放送の「るてんのんてる」

ラジオ部門

最優秀賞: NHKの「みんなでひきこもりラジオ」

優秀賞: RKB 毎日放送の「空想労働シリーズ サラリーマン」

なお、奨励賞は誌面の都合で割愛したが、ドラマ部門では、初のネット配信コンテンツ「忍びの家、House of Ninja」(Netflix

シリーズ)が奨励賞を受賞している。また、1974年に発足した放送文化基金は、今年50周年を迎えたこともあり、黒柳徹子さん、相田洋さん、重信浩さん、「NHK連続テレビ小説制作班」、「かがや」搭載ハイビジョンカメラ開発グループと番組制作グループに記念賞が授与された。「かがや」は、2007年に宇宙航空研究開発機構が打ち上げた月周回衛星で、同衛星に搭載されたハイビジョンカメラを使って記念すべき「月から見る地球の出」の初中継を実現した。

「衛星放送協会 オリジナル番組アワード」

次いで7月12日には、衛星放送協会が主催する「第14回オリジナル番組アワード」の授賞式が、よみうり大手町ホールで開催された。今回、番組部門6ジャンルの最優秀賞の中から選出されるグランプリには、WOWOWが1月に独占生中継した「生中継!新しい学校のリーダーズの初武道館青春襲来」が選ばれた。同アワードの審査員は「4人のメンバーによる躍動的なダンスと妖しくストレートな歌は、従来のライブやステージの規模を何十倍にもした大がかりなものであった。ダイナミズムを引き出す構成、照明、音響などの演出やカメラワークもすばかった」と絶賛した。

6ジャンルの番組部門で最優秀賞に輝いたのは、下記の作品であった。

番組部門 ドラマ

「東京貧困女子。貧困なんて他人事だと思ってた」(WOWOW プライム制作)

番組部門 ドキュメンタリー

BS1 スペシャル「わが娘を手放した日 中国一人っ子政策のその後」(NHK BS1制作)

番組部門 中継

既述の「生中継!新しい学校のリーダーズの初武道館 青春襲来」が受賞



写真1 「第50回放送文化基金賞」のドキュメンタリー部門の最優秀賞に輝いたのは、NHK 福岡放送局が制作した「膨張と忘却～理の人が見た原子力政策～」であった。(出典: hbf.or.jp)

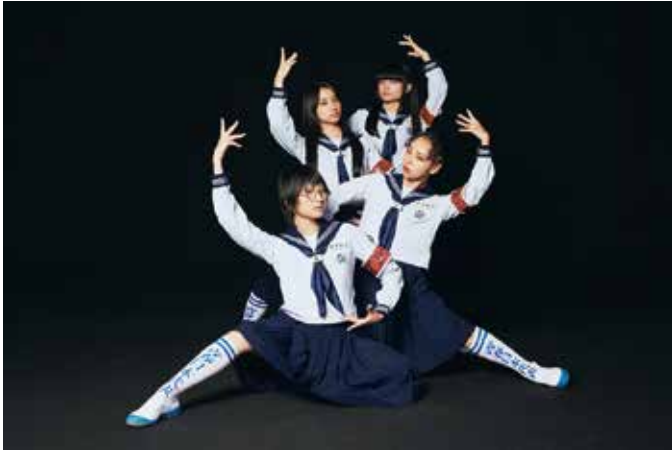


写真2 「第14回オリジナル番組アワード」番組部門のグランプリに輝いたのは、WOWOWが制作した「生中継！新しい学校のリーダーズの初武道館 青春襲来」であった。（出典：corporate.wowow.co.jp）



写真3 放送サービス高度化推進協会の「4K番組アワード」の授賞式には、女優の内田有紀さんとキャラクターの「ヨンハチさん」が登場して盛り上がりを見せた。（photo：K.Mochimaru）

番組部門 文化・教養

「ゴッドバンド 復元師と天翔る白馬」
（NHK BS プレミアム制作）

番組部門 バラエティ

「ドリーム対談 里見浩太郎 x 高橋英樹 われらの時代劇」（時代劇専門チャンネル制作）

番組部門 ミニ番組

「シモ' S キッチン! シモ流特大お好み焼き」
（GAORA SORTS 制作）

上述した番組部門以外に、コンテンツ展開部門、番宣部門、広告部門でも最優秀賞が下記の通り発表された。

コンテンツ展開部門 最優秀賞

「鬼平犯科帳 本所・桜屋敷」

番宣部門 最優秀賞

「清順美学 4K で甦る 大正浪漫三部作 放送告知 60 秒プロモ」

広告部門 最優秀賞

「APEX LEGENDS e-elements DREAM MATCH supported by BYD 王様からの招待状」（アニマックス制作、広告主 BYD）

なお、衛星放送協会によれば、授賞式の模様と表彰された各作品の見どころ映像を講評と共にスカパーおよび J:COM で9月に無料放送を行う予定という。

「A-PAB 4K 番組アワード」

さらに放送サービス高度化推進協会（A-PAB）が、2018年12月1日に開局した4K8K衛星放送が5周年を迎えたことを機に「A-PAB 4K 番組アワード」の受賞作品を発表して授賞式を行った。ドラマ、紀行・ドキュメンタリー、ライブ・エンターテインメント、短編映像の4部門から構成されており、各部門の最優秀作品は、下記の通りであった。（本アワードについては、本誌7月号ですでに詳しいレポートと写真が掲載されているので参照願いたい）

ドラマ部門

最優秀作品：WOWOW制作の「連続ドラマW フィクサー Season1」

紀行・ドキュメンタリー部門

最優秀作品：BSフジ制作の「令和の法隆寺～1400年の伝承と聖徳太子の残響～」

ライブ・エンターテインメント部門

最優秀作品：NHKとNHKグローバルメディアサービス制作の「大迫力！長岡の大花火 2022 スペシャルライブ」

短編映像部門

最優秀作品：関西テレビ放送制作の「つくるとのこと」

上記最優秀作品の中からグランプリに輝いたのは、WOWOWが制作した「連続ドラマ フィクサー Season1」であった。本ドラマについては、「脚本家の井上由美子氏がフィクサーを題材に描いた骨太かつ極上のエンターテインメントだ。主演の唐沢寿明さんをはじめとする豪華役者陣の気迫たっぷりの演技も引き立っていた」との講評がなされた。

なお、A-PABの発表によると、6月末時点での4K8K衛星放送視聴可能機器台数の累計は、19,986,000台に達したという。このうち4K8Kチューナー内蔵テレビは、14,639,000台を占めている。パリでオリンピック、パラリンピックが開催される7月～8月時点で2000万台に達するかどうかに関心の的だ。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
日本衛星ビジネス協会 理事